

東日本大震災ボランティア活動報告 2011年6月21日～24日

記：出戸調剤薬局 宮本 剛二

宮城県石巻市

大震災から早3ヶ月以上が経過 徐々にではあるが生活というものが戻りつつあった。

活動内容

仮設診療所にて中部大学医療チーム、日赤島根医療チームとの外来診療

処方内容のチェック、調剤薬局への在庫の確認、誘導、外来患者さんの分析表作成等

最終日は避難所巡回 OTC 配布と現状確認

考察

仮設診療所は水道もなく環境としては不適切だと思われる。

怪我等で来られる患者さんも多く見られ、職員が手も洗えない状況ではまともな診療も行えないと思われます。

また患者さんは処方箋を近くの調剤薬局まで取りに行けることから、外来診療している開業医にも通院出来る為、仮設診療所の閉鎖はした方が良いでしょう。

注：院外処方が進んでいた為、仮設診療が非常にスムーズでした。

避難所に関して

避難所巡回している割には、未確認避難所も多数あり、せっかく巡回ボランティアをしているのであればよりローラー作戦を徹底すべきでは？

二階族と呼ばれる（自宅の二階に住み始めてる）方々が多数見られるようになったとのこと。少しずつ震災当時と現在とでは、現状の問題点が変遷しています。これからは行政とのタイアップが必要だと思われます。

大日本住友製薬さんに対策事務局として活動お願いしていますが、この件も早期撤退すべきです。情報を一元管理する為には地元薬剤師会、宮城県薬剤師会の主導が必要であり、9時に来て5時に帰る事務職員がおられましたが、こういう方々に対策事務局としての活動をさせるべきです。常に現場にいて情報収集出来る人材が居るからこそ、現状の問題点の把握が出来ます。事務局の人間がころころ変わる現状は、そろそろ終わりでしょう。

付録

日赤医療チームの方からの話

震災時、非常事態の状況で仮設診療していたとき、岩手の薬剤師の方の働きが非常に良かったと。今回の震災でのキーマンは薬剤師だったと言っていました。患者さんの病態把握からの Dr への処方内容の指示等が迅速に行えたとのこと。眼科や整形外科といった Dr が多く参加した今回の震災、ハイパー薬剤師としての活躍が評価されたことに、これからの薬剤師像が見えてきたと思います。

以上